

# いくの地域まちづくり計画

(改訂版)

～ ロマンあふれ かがやくまち 生野 ～



2017年 5月

いくの地域自治協議会

# 生野地域まちづくり計画（改訂版） 目次

## 1部 基本計画

### 計画見直しの事由

#### 第1章 計画の目的と背景 …3 ページ

- 1 まちづくり計画の目的
- 2 まちづくり計画の背景

#### 第2章 まちづくりの理念 …5 ページ

- 1 まちづくりの理念
- 2 まちづくりのキャッチフレーズ
- 3 目標・将来像
- 4 計画の実現に向けて

## 2部 分野別計画

#### 第1章 健康でふれあい とともに生きるまちづくり（健康・福祉）…10 ページ

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

#### 第2章 やさしさが集まるまちづくり（生涯学習・子育て支援・男女共同参画）…13 ページ

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

#### 第3章 水と緑のきれいな分水嶺のまちづくり…16 ページ

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

#### 第4章 「みんなおいで！」のまちづくり（地域活性化）…19 ページ

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

#### 第5章 あんぜん・あんしんなまちづくり（防犯・防災）…22 ページ

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

#### 第6章 計画の実現に向けて…24 ページ

### 参考資料など … ページ

- 策定経過
- 協力者等名簿
- 施策体系図

# 第1部 基本計画

## 計画見直しの事由

### 第1章 計画の目的と背景

- 1 まちづくり計画の目的
- 2 まちづくり計画の背景

### 第2章 まちづくりの理念

- 1 まちづくりの理念
- 2 まちづくりのキャッチフレーズ
- 3 目標・将来像
- 4 計画の実現に向けて

## 計画の見直し事由

平成 22 年 5 月に策定しました「いくのまちづくり計画」が策定後 6 年を経過し、新市合併時に想定していました人口減少が予測を超え高齢化も進み、空き地・空き家が増え対策が急がれています。また高齢者への不法販売、天候不順による自然災害も多く発生しています。

このようなことから現在進めている地域自治協議会の取り組みを再認識し、従来計画していた平成 32 年度の目標達成に向けて今後も地域に必要な取り組みをみんなで無理なく進めていけるよう「いくのまちづくり計画見直し特別部会」を設置し、意見交換を行い、課題を見つけながら解決し、未来の子どもたちに個性豊かなこの地域を引き継いでいくために、まちづくり計画を見直します。

## 第 1 章 計画の目的と背景

### ① まちづくり計画の目的

いくの地域自治協議会が策定する「まちづくり計画」は、私たち地域住民が主体となって行ういくの地域のまちづくりに向けた基本的な指針となるものであり、地域のまちづくりにかかる行動計画として位置づけられるものです。

本計画は、基本計画と分野別計画で構成されており、基本計画では基本となるべきまちづくりの理念と目標や将来像などを設定し、分野別計画ではそれぞれ課題と目標を設定するとともに施策・事業を設定するほか、計画実現に向けて心掛けるべき事項などを示しています。



- いくの地域まちづくり計画
  - 基本計画（まちづくりの理念、目標や将来像）
  - 分野別計画（分野ごとの施策・事業など）
- 毎年の事業計画及び予算 — それぞれの事業や活動を具体化

また、具体的には毎年策定する各年度の事業計画及び予算において実施内容などを示していくこととします。

## ② まちづくり計画の背景



いくの地域は、朝来市生野町のうち口銀谷地域及び栃原地域などの範囲で、中国山地の中央部、市川及び円山川の分水嶺であり、地域の大半は山林で中心部に市街地や農地が広がっており、人口は **2,878** 人、世帯数は **1,146** 戸（平成 **28** 年 **12** 月現在）で、14 の行政区からなっています。

生野は古くから日本を代表する銀山の町として栄え、鉱山まち独特の歴史や文化を育み、豊かな暮らしが営まれてきました。昭和 48 年の閉山後も、企業や地域住民の努力により鉱工業のまちとして継続的に発展してきました。

平成 7 年頃から積極的に展開されてきた「住民と行政の協働のまちづくり」が定着している地域であり、様々なイベントが地域住民の連携によって展開されているほか、国特別天然記念物オオサンショウウオが生息する豊かな自然環境の保全やきれいな川づくり、防犯まちづくりや自主防災などの活動が積極的に展開されています。

いくの地域自治協議会は、**旧生野小学校区**及び平成 17 年 4 月に統合した**旧栃原小学校区**をエリアとして設立した自治協議会で、生野マインホール内に事務局を設置しています。

このいくの地域では、景気の悪化などから生野から撤退する企業が現れ、雇用環境が大きく変化するとともに、転勤等により従業員家族が転出し**無人の行政区が 2 つ発生**するなど、ますます少子高齢化が深刻化しています。

一方、生野鉱山をはじめとする近代化遺産の評価が高まり、「鉱石の道プロジェクト」や「銀の馬車道プロジェクト」などと連携したシンボリックな交流事業として展開している「銀谷祭り」や「銀谷のひな祭り」をはじめとする町並みイベントが定着している**他にも観光交流を推進**するために平成 22 年に改修整備された「朝来市旧生野鉱山職員社宅・志村喬記念館（甲社宅）」、「口銀谷銀山町ミュージアムセンター（旧浅田邸・旧吉川邸）」や「生野駅西口の観光情報センター」などの整備がされたことにより、まちづくり工房井筒屋も含めてこれまで以上に町並み散策などで生野を訪れる観光客や交流人口が増加しています。

さらに、住民グループのまちづくり活動も積極的に展開されており、地域づくり生野塾の系譜を受けた偕和倶楽部や、観光交流を主要テーマとした NPO 法人いくのライブミュージアムが設立されたほか、口銀谷の町並みをつくる会や井筒屋運営委員会、いくの銀谷工房、**甲社宅運営委員会**、**南の浅田邸管理委員会**などが様々な活動を推進しています。





また、近年では女性目線での観光PRを推進するため、女性事業者が協力し「生野マルシェ」という団体を結成するなど、観光客をおもてなしする体制が整いつつあります。このほか、まちづくり活動を支援する地域ファンドの性格を持つサポート組織として生野ひいきの会により、まちづくり活動の財政支援などが行われており、各種団体がさらなる連携を図りながらいくの地域が目指すまちづくりの目標に向かって活動を展開していくことが重要であり、こうした活動をいくの地域の全住民が理解していくことが必要となっています。



また、社会全体も分権型へ移行しており、「自分たちのまちは自分たちで汗を流して創る」「地域の課題を自分たちで解決する仕組みをつくる」という考え方ができ、概ね小学校区を単位として設置されている地域自治協議会などは、こうした動きを受けたものと言えます。

加えて、朝来市の第二次総合計画では人口施策を最重要課題と位置付け、若者世代を軸とした次世代へとつながるまちづくりをテーマに、交流人口の増加から定住人口の増加へとシフト変更するために、地域内に多くある空き家・空き地を活用した移住・定住への取り組みが求められます。

このような様々な背景を受けて、いくの地域自治協議会としてまちづくりを計画的に進めていくために、まちづくり計画を平成28年度に見直しを行いました。

## 第2章 まちづくりの理念

### ① まちづくりの理念

いくの地域において私たちが展開していくまちづくりは、現在住まわれている方には「住み続けたい」、地域外からの方には「行ってみたい」、「住んでみたい」と思っただけのように次の理念を設定しています。

#### ・住民を大切にすまち

地域住民、移住者に拘らず住民一人ひとりが、豊かで充実した暮らしを営み、生野に住んで良かったと思われるようなまちづくりを進めることが必要です。鉱山全盛期から移住者を寛容に受け入れたり、親切なもてなしをする鉱山まち独特の風土や歴史・文化に育まれた人々の暮らしを大切にします。さらに生野の魅力を発信し移住者を積極的に受け入れて定住者となってもらよう支援し活気あふれる新たなまちづくりを行います。

## ・地域の個性を大切にすまち

私たちのまちは、日本を代表する鉱山まちであるとともに分水嶺のまちなど、独特の個性を持っており、風土や歴史、伝統行事などに地域の個性や生野らしさがあります。加えて平成 26 年 3 月には全国の鉱山まちとして初めて「生野 鉱山及び鉱山町の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定されました。さらに「日本遺産」の認定も視野に入れ、こうした個性を大切にしていこうとすることによって、地域全体の個性と質を高めていくという視点を重視します。



## ・住民参画によるまち

まちづくりは、住民一人ひとりの自主的な活動と、地域自治協議会や行政、企業などの協力のもとに地道につくり上げていくものです。

特に、住民参加による総合計画策定や地域づくり生野塾の展開、さらには生野町まちづくり基本条例の制定など、全国のモデルとなるような参画と協働のまちづくりが展開されてきた地域であることを踏まえ、住民の参画を得ながら策定したまちづくり計画の実現に向けては、住民の主体的な活動を大事にしたまちづくりを発展・継承していきます。



## ・奥銀谷地域と連携したまち

いくの地域自治協議会は平成 19 年時点の旧生野小学校区と旧栲原小学校区を対象範囲としており、同じ生野町の奥銀谷地域は範囲には含まれていません。ところが実際には、自然環境や地域の歴史・文化などの多くは両地域が共有しており、これまでの防災や福祉、生涯学習や観光まちづくりなどのほとんどの活動が、長い間に渡って生野町全域を対象として行われてきました。



さらに平成 21 年 4 月に奥銀谷小学校と生野小学校とが統合し生野町全体が一校区となった状況なども踏まえ、今後の活動においても奥銀谷地域自治協議会と緊密な関係を構築し、ともに連携した生野町のまちづくりを展開していきます。

## ② まちづくりのキャッチフレーズ

私たちは、これからいくの地域で進めるまちづくりについて様々な議論を重ね、次のキャッチフレーズを設定し、まちづくりを進めていくこととしました。

### ～ロマンあふれ かがやくまち 生野～

このキャッチフレーズには、「生野銀山の歴史ロマンや美しい自然のロマンに満ち、金や銀の輝きと同様に人々がいきいきと輝いて暮らすことができる生野をみんなでつくっていきましょう」という、私たち住民一人ひとりの思いが込められています。

## ③ 目標・将来像

私たちは、いくの地域のまちづくりを進めるにあたって、分野ごとに次の目標・将来像を設定しました。

### 健康でふれあい、ともに生きるまちづくり

住民の支え合い・助け合いは、決して強制されるものではなく、住民一人ひとりの心が源となって広がっていくべきものです。目指す方向性は共有しながらも、一人ひとりが自らの目線で地域社会の一員として自覚し、ともに助け合いながら、楽しく、いきいきと、生きがいを持って暮らしていくことが大切です。



### やさしさが集まるまちづくり

貴重な地域資源を有するまちに住んでいる私たちが学習して、地域の魅力を再認識し、次世代の子どもたちへ伝えていくことが求められています。さらに、地域で子どもたちを育み、安心して子育てのできる環境を創出するとともに、世代間交流を通じて、地域に誇りが持てるようにしていきます。





## 水と緑のきれいな分水嶺のまちづくり

市川などの美しい自然や鉱山まちとして、歴史・文化など生野の豊かな環境を地域住民の財産として次世代に引き継いでいく暮らしを進めるとともに、いつまでも住み続けられるように潤いのある快適な環境をつくり上げていきます。



## 「みんなおいで！」のまちづくり



住民団体などが、近代化産業遺産群や風情ある町並みなどの地域資源を活かした様々なイベントを展開しているなかで、いくの地域が昔から育んできた親切心やおもてなしの心を持ち、まちづくりの目標に向かって活動を継続・発展させていくために、各種団体との連携を図ることが重要であり、こうした活動をいくの地域の全住民が理解していく環境をつくり上げていきます。

## あんぜん・あんしんなまちづくり

住民や地域が連携した活動を行い、犯罪の防止や災害などに備え、あんぜん・あんしんに暮し住み続けるまちをつくり上げていきます。



### ④ 計画の実現に向けて

このまちづくり計画は、多くの地域住民の参画を得て意見を集約させながら自らのルールとして策定しました。計画の実現に向けて、自分たちで確実に行動していくことによってより精度の高いまちづくりを進め、ロマンあふれかがやくまちを次世代へと引き継いでいきます

## 第2部 分野別計画

### 第1章 健康でふれあい、ともに生きるまちづくり（健康・福祉）

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

### 第2章 やさしさが集まるまちづくり（生涯学習・子育て支援・男女共同参画）

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

### 第3章 水と緑のきれいな分水嶺のまちづくり（環境）

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

### 第4章 「みんなおいで！」のまちづくり（地域活性化）

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

### 第5章 あんぜん・あんしんなまちづくり（防犯・防災）

- 1 地域の課題
- 2 目標・将来像
- 3 施策・事業

### 第6章 計画の実現に向けて

## 第1章 健康でふれあい、ともに生きるまちづくり (健康・福祉)

### 1 地域の課題

以前にも増して少子高齢化、核家族化が進み加えて個人が考える価値観も「物の豊さ」から「心の豊かさ」へと変わり家庭や地域で互いに支え合うという機能が弱まり、地域で共に支え助け合うつながりが薄れてきています。さらに地域での生活環境も変化し家庭内暴力やひきこもりなどの社会問題も起きており住民一人ひとりの持つ温かい心が重なり合い、広がるよう地域での支え合い・助け合いの仕組みづくりになお一層取り組んでいく必要があります。



「地域」は、家庭の次に、地域における基本的なまとまり・つながりとなる単位です。地域で暮らす者同士、日頃から連携・連絡などを保つことも新しい時代に対応して必要なことだと感じます。

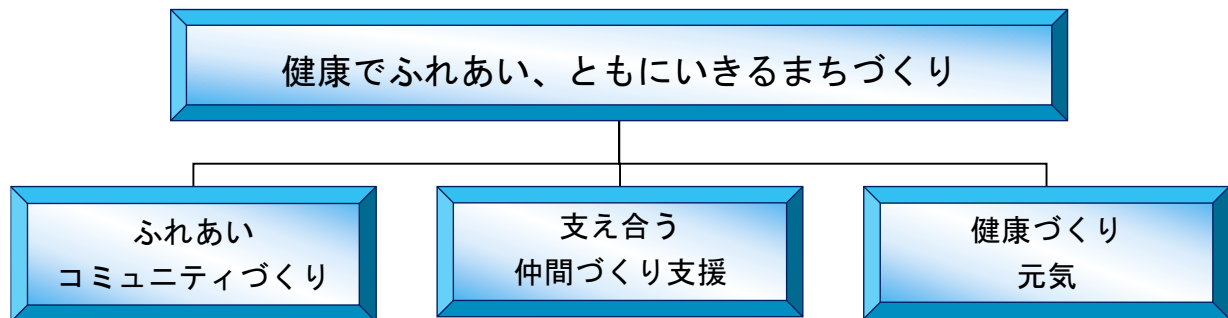
### 2 目標・将来像

## 健康でふれあい、ともに生きるまちづくり

地域福祉とは、制度によるサービスを利用するだけでなく、地域の人と人とのつながりを大切にし、お互いに助けたり助けられたりする関係やその仕組みをつくっていくことだと思います。これからのまちづくりは、子どもから高齢者まで住民の誰もが住み慣れた地域の中で、心豊かに安心して暮らせる仕組みをつくり、それを持続させることだと思います。そのためには様々な生活課題について住民一人ひとりの努力、住民同士の相互扶助、公的な支援の連携により解決していこうとする意識も大切です。



## 事業の体系図



### 3 施策・事業

#### ふれあいコミュニティづくり



みなさんが思い浮かべる「福祉」とは高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉などの対象者ごとの施策だと思われていないでしょうか。それはこうした方々にそれぞれの法律や制度によって、必要なサービスが提供されているからです。普段の生活を送るのに支障の少ない健常者には気にならないことであっても高齢者の方や障害のある方は様々な問題、悩みを抱えておられることが多くあります。

少子高齢化が進むなか支え合い・助け合いの社会をつくっていくためには地域で互いの立場を知り、理解し、認め合うことも大切ですので、そのための活動や環境づくりに取り組んでいきます。





## 支え合う仲間づくり支援

福祉サービスを必要とする人々が自立した生活や社会参加ができるように、地域住民はもとより社会福祉事業者、地域で福祉にかかわる方々が互いに協力し地域の福祉を進めていくことが求められています。

近年の震災・風水害の発生時に様々な活動をしたボランティアは、個人の自発的な意思によってする活動であり、これからの社会でもとりわけ大切な人材であって地域福祉を支える担い手でもあります。自らの活動意識・意思を尊重し今後もボランティア人材・育成を図りながら、既存の組織との連携も進めていきます。



## 健康づくり元気

健康は、すべての人にとっての願いであり、地域のまちづくりにおいても大きなテーマのひとつです。しかしながら、高齢化が進み、食生活が豊かになり、生活様式が多様化する現代社会では、生活習慣病が増加し、健康を維持していくことが難しくなりつつあります。福祉や医療など、いざと言う時の支援体制を整えることは大切ですが、自分の健康は、自ら守り、つくるという自覚を持つことも大切です。



少子高齢社会に対応するために、地域住民一人ひとりが心身ともに健やかに暮らすことを支援していきます。生きがいを持っていきいきと暮らし、働くことが、地域の活力源となることから、地域福祉を推進するためにも、こうした視点で取り組んでいきます。

## 第2章 やさしさが集まるまちづくり (生涯学習・子育て支援・男女共同参画)

### 1 地域の課題

私たちのまち生野は、古くから銀山のまちとして、また但馬と播磨の接点として、特色ある文化を形成してきました。

しかしながら時代とともに、わたしたちを取り巻く環境は大きく変革しつつあります。人々の価値観やライフスタイルは多様化し、少子高齢化の進展と相まって定住人口も減少し続けています。

そのため、歴史とともに築き上げてきた伝統文化を保存・継承し、地域資源を再認識する必要があります。

さらに、地域に暮らす私たちが、鉾山町独特の町並みや歴史遺産に対する理解をより深めていくことが求められています。また、地域ぐるみで子育てを支援する環境づくりなど人口減少や本格的な少子高齢化社会を見据えた新たな取り組みが重要な課題となっています。また、地域住民が健やかに、明るく活力に満ち、一人ひとりが地域を支え合う地域社会形成が望まれています。



### 2 目標・将来像

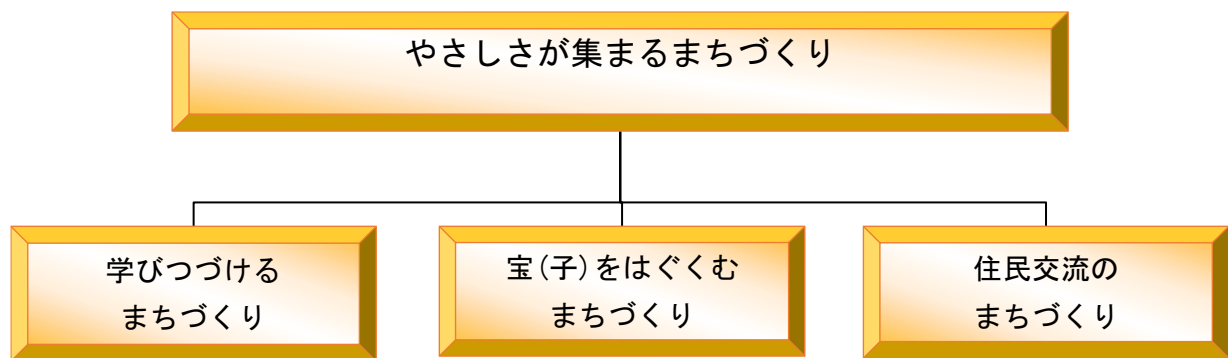
#### やさしさが集まるまちづくり

私たちが地域の魅力を再認識し、次世代の子どもたちへ伝えていきます。

さらに、地域で子どもたちを育み、安心して子育てのできる環境を創出するとともに、世代間交流を通じて、地域に誇りが持てるようにしていきます。



## 事業の体系図



### ③ 施策・事業

#### 学びつづけるまちづくり



私たちの地域に受け継がれた歴史遺産や伝統を共有財産として保存に努めるために、一人ひとりが学習の目的を認識し、意欲に目覚めるような啓発活動を推進していきます。

「わが町を知ろう」などを通じて、地域の歴史遺産を知り、地域の魅力を再発見するとともに、世代間の交流を図ります。また、子どものころから地域への愛着と誇りが持てるような**取り組み**に努めます。

#### 宝(子)をはぐくむまちづくり

地域で子どもたちを育み、安心して子育てできる環境を地域全体で支援していくことが求められています。

**子どもと地域の大人との交流会**などを通じて、地域ぐるみで育てていく事業を展開するとともに、家庭内で眠っている不用となった子育て用品を必要な家庭に提供していく、子育て支援リサイクルバザーを**今後も**開催していきます。



さらに、これからの地域を支えていくことになる子どもたちのために、地域全体で子どもたちの健全育成に努めるための事業を展開していきます。





## 住民交流のまちづくり

地域の人々が相互の交流と理解を深めるための交流の場づくりをめざしていく必要があります。

また、生野に移住して来た人たちが地域に入り、参加できる場を設定するなど、支援する仕組みを検討し、地域への愛着心を醸成するための事業を展開していきます。





## 第3章 水と緑のきれいな分水嶺のまちづくり (環境)

### 1 地域の課題

私たちのまち生野は、産業城下町として生野鉱山とともに発展し、現在も鉱工業のまちとしての営みを続けています。

公害を克服し豊かな自然環境を取り戻してきた生野として、環境に対する積極的な取り組みは欠かすことのできない重要な課題です。

これからのまちづくりは、産業生活文化の蓄積である歴史環境や自然環境などとの調和を図りながら、地域全体の個性と魅力をより一層高めていくことが求められています。

さらに分水嶺のまち、水源地のまちとして、特別天然記念物オオサンショウウオの生息する市川や円山川、生野高原など魅力資源の活用や、自然環境の保全と活用などが求められています。

また、地球温暖化による影響は深刻な状況になっており、地球環境に配慮してCO<sub>2</sub>削減に向けて住民一人ひとりができることをしっかりと考え、分別収集や資源ごみ回収の徹底、エコバッグ運動の推進やバザーの開催による不用品交換やリサイクルの推進などが重要になっています。



地域のゆとりと潤いある環境づくりも重要な課題であり、緑化活動や花いっぱい運動の推進によって自分の家のまわりや生野の玄関となるゾーンについてもきれいにしていく必要があります。

さらに、観光交流やまちづくりに向けて、水辺施設の充実により安らぎの空間づくりを進めていく必要があります。

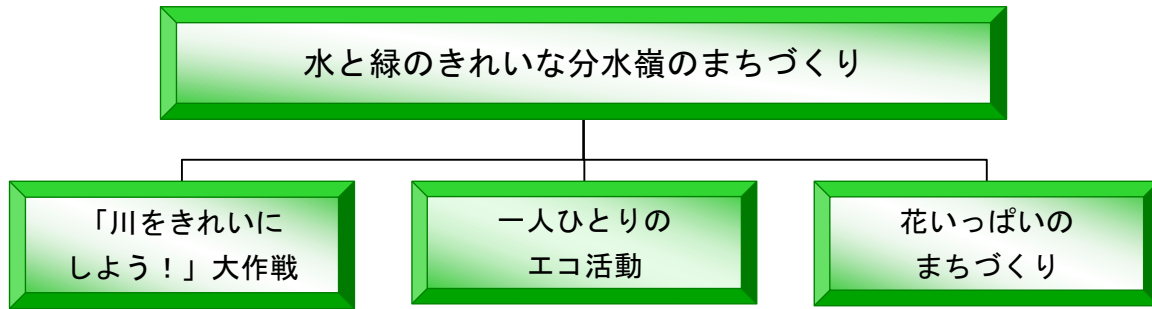
### 2 目標・将来像

## 水と緑のきれいな分水嶺のまちづくり

分水嶺のまちとして、**また源流のまちとして**公害を克服し豊かな自然環境を取り戻してきた生野としての責任のもと、市川や円山川などの豊かな環境資源を次の世代に引き継いでいく暮らしを進め、いつまでも住み続けられるような潤いのある快適な環境をつくり上げていきます。



## 事業の体系図



### 3 施策・事業

#### 「川をきれいにしよう！」大作戦

源流のまち・生野としての誇りを持ちながら、市川及び円山川の流域をきれいにする清掃や草刈りを、いくの地域自治協議会の会員が主体となって子供たちと一緒に取り組み、美しい流域を取り戻していきます。



すでに、地域や地元企業、住民グループなどによって積極的なボランティア活動による清掃作業などが進められていることから、こうした活動と連携しながら大きな輪になっていくように進めていくとともに、将来的には、奥銀谷地域自治協議会などとも連携しながら事業を展開していきます。

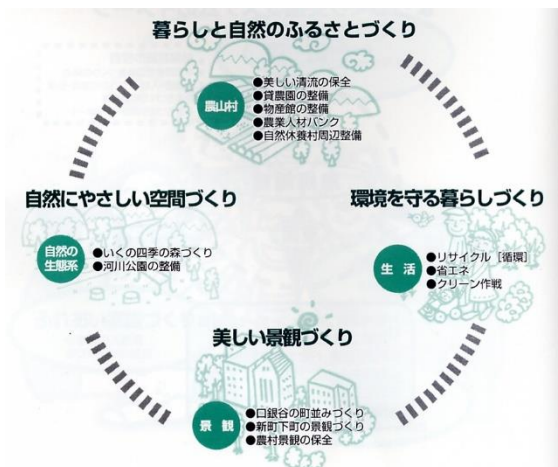
さらに、河川にゴミなどを投棄しないような啓発活動も展開していきます。

#### 一人ひとりのエコ活動

公害を克服し豊かな自然環境を取り戻してきた生野として、住民一人ひとりの小さな努力をみんなで評価する仕組みをつくり、活動の輪を地域全体に広げていきます。

省エネや節水に心がけ、過剰包装をなくすエコバックの持参運動や環境に配慮した暮らしに向けて、一人ひとりが努力を重ねていきます。

特に、エコバッグ運動については地元商店やスーパーマーケットなどの理解と協力を得ながら進めていき、男性も積極的に取り組んで全国に情報発信していきます。



## 花いっぱいのまちづくり

公害を克服することによって周辺の緑を甦らせてきた生野として、「朝来市の花」でもある桜を植樹し、みんなで維持管理していくことによって緑化のシンボルとし、将来的に生野における桜の名所として育てていきます。



「生野の玄関」である生野真弓峠の国道 312 号沿いにある藤棚などをきれいに花で飾るとともに、播但連絡道路から生野へ入る交差点や生野新橋周辺なども、生野の玄関と位置付けて花で飾り、**きれいなまちづくり**をみんなで進めていきます。

モデル的に数か所のエリアを設定して、プランターの貸与や花苗・肥料などの供給支援を実施し、すでに活動が続けている住民グループなどと歩調を合わせながら、年次的に花いっぱい運動の輪をいくの地域全体に拡大させていきます。



## せせらぎのあるまちづくり

下水道の整備によって生活環境が良くなってきた一方で、5区甲社宅周辺のように側溝や用水路に流れる水量が減少し、雑草やゴミなどが目立つようになってきました。

そこで、口銀谷地域において、観光客が歩く町並み散策ルート上の用水路や側溝を使い、水が流れ、コイなどが泳ぐような**うるおいのある空間**をつくり、町並みを活かした観光まちづくりにも努めます。

また、真弓地域に架線遊歩道が整備されますので、遊歩道のそばに梅花藻を植栽し、市民が親しむ場として活用していきます。





## 第4章 「みんなおいで！」のまちづくり (地域活性化)

### 1 地域の課題

私たちのまち生野は、生野銀山の風情を色濃く残す町並みや鉱山産業遺産群などの歴史文化の特性を生かした整備が進み、生野を訪れる人も年々多くなっている中で、来訪者へのおもてなしの充実を図ることが求められています。

今では近代化遺産の評価が高まり、地域資源を活かした活性化や観光交流イベントが各種団体等により開催されており、各団体との連携や活動を継続していくための一層の支援が求められています。

また、地域内に空家・空き地が目立つようになり、これの有効利用を図るための情報提供が求められています。

さらに、地域の特産品として銀製品については、銀の馬車道プロジェクトから新たな商品が開発されており、そのブランド化や販売拡大を図るとともに、新しい特産品の研究・開発を進めていく必要があります。



### 2 目標・将来像

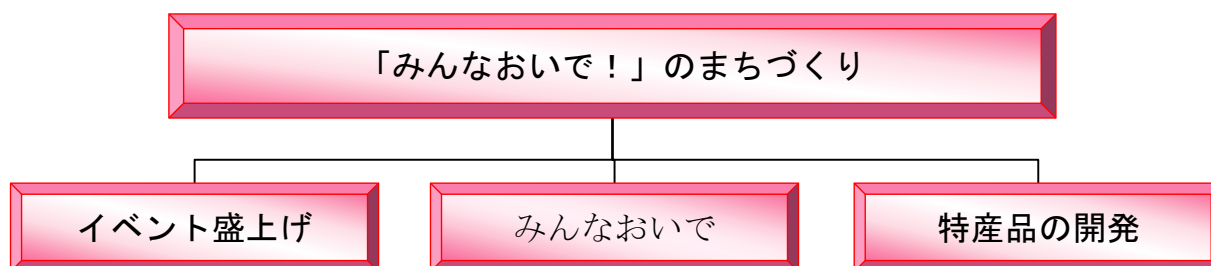
## 「みんなおいで！」のまちづくり

住民団体などが、風情ある町並みや近代化遺産群などの地域資源を活かした様々なイベントを展開しているなかで、いくの地域が目指すまちづくりの目標に向かって活動を継続・発展させていくために、各種団体との連携を図ることが重要であり、こうした活動をいくの地域の全住民が理解し、積極的に参加してもらえる環境をつくり上げていきます。





## 事業の体系図



### ③ 施策・事業

#### イベント盛上げ

銀谷祭りのメインブースとなる「鉦山食堂」の運営支援をいくの地域自治協議会が引き継ぎ、調理・スタッフ・食材・資材などを確保し、安定的な運営を支援し将来的には自立した運営に持っていきます。

また、「生野夏物語」の側面からの支援を行っていきます。

さらに各種団体等が開催している各種イベントの運営支援を行うことなどにより、来訪者と地域の人たちとの交流を深め、交流人口の増加に努めていきます。



## みんなおいで

地域に点在する空家・空地の活性化及び有効活用を図るため、UターンやIターン、さらには新しく移住を始めた方に対する心の支えとなれるよう積極的な対応策を講じ、また気楽に参加できる場づくりに努めていきます。

移住への対応策としては、まず、生野を好きになってもらい、「第二のふるさと」として思ってもらうことから始まり、その上で、生野の生活環境を理解してもらう仕組みづくりが必要です。また、いきなり移住の誘致を図るのではなく、移住を受け入れる前に、UターンやIターンを希望する人との交流を重ねるような取り組みが重要となります。

交流に関しては、地域発の視点にたって、生野の自然、歴史、文化、食などを活用し、地域の人とのふれあいを通して、観光では味わえない地域の暮らし体験交流に取り組み、地域のそのままの姿を見せることで、地域との絆をつくとともに、地域とともに暮らす意識を深めることとします。

実施に関しては、行政などの関係機関と連携し、さらに、2016年度の全国高等学校観光選手権大会で銅賞を受賞した生野高校の学生など、地域の若者たちとの連携も視野に入れながら、地域体験の指南役としての役割、活動全体のまとめ役としての役割などを担う人づくりと組織づくりを検討します。



## 特産品の開発



落ち着いた町並みなど鉾山町独特の風景や生野鉾山産業遺産群が広がり、これらを活かした地域イメージの銀製品など銀に着目したまちの活性化に繋がる特産品を売り出すシステムを確立していきます。

また、郷土料理のだんじの関連品の開発や新たな特産品を開発も進めていきます。

## 第5章 あんぜん・あんしんなまちづくり (防犯・防災)

### 1 地域の課題

私たちのまち生野は時代の変遷とともに急激な過疎のまちとなり、大幅な人口減少が続  
き、少子高齢化のまちとなっています。近年多発している、高齢者への不法販売や振り込  
め詐欺、児童・生徒・女性等への変質行為などの犯罪が身近でも発生しており犯罪を防止  
する取り組みが求められています。

また、異常な気象による自然災害が全国各地で頻発し、多くの人命や財産が失われてい  
ます。平成21年8月には、市内各地、特に旧朝  
来町で異常出水により大きな被害を受け、災害に  
襲われる可能性が非常に大きくなっています。災  
害時の対応策や有事への備えが求められていま  
す。

犯罪や災害に対する備えは、行政にのみ頼るの  
ではなく、あんぜん・あんしんに暮らせるまちを  
自分たちの手でつくるために、住民の自主的な活  
動が強く求められています。



### 2 目標・将来像

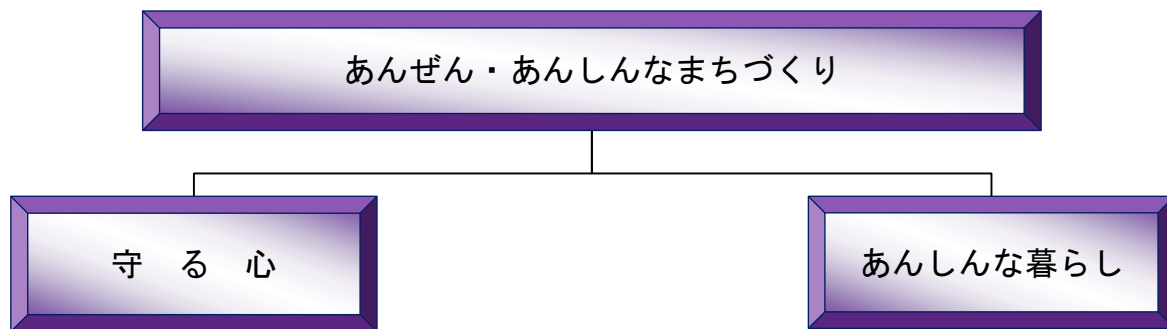
## あんぜん・あんしんなまちづくり

住民や地域が連携した活動を行い、犯罪の防止や災害などに備え、あんぜん・あんしん  
に暮し住み続けるまちを作り上げていきます。





## 事業の体系図



### ③ 施策・事業

#### 守る心

犯罪を未然に防止し、住民があんぜんに暮らし、子供たちが安心して学び遊べるまちにするために、地区や各種団体、住民に積極的に参加を呼びかけ、組織化を図り、**学校・PTAや警察等と連携し交通安全教室、夜間パトロール、青パトによる防犯パトロール、通学時の見守り活動・交通立ち番等を行い、犯罪や事故を未然に防ぐような取り組みを行います。**

災害時の高齢者や弱者の支援、避難誘導等を円滑に行うためには、支援を必要とする人を明確にし、情報を共有する必要があります。地域と住民相互のコミュニケーションが重要であることから、地域の助け合いネットワークを確立しコミュニティを創出します。



#### あんしんな暮らし

災害や有事時には、地区（地域住民、自主防災組織）、消防団、各種団体等が連携した活動を行い、対応することが、必要不可欠です。この各種団体の活動を強化し、連携を深めることを進めていきます。また、災害や緊急時に対しては、住民個々の防災知識の習得や適切な行動が不可欠です。このため、災害や緊急時の避難訓練や普通時の避難訓練や普通救命講習（AED）を定期的に行い、知識や対応策の習得を図ると共に、あんしんマップ・緊急情報キットの更新を行いAEDの設置個所や消防施設、避難所、通学路等の周知を図ります。







## 第6章 計画の実現に向けて

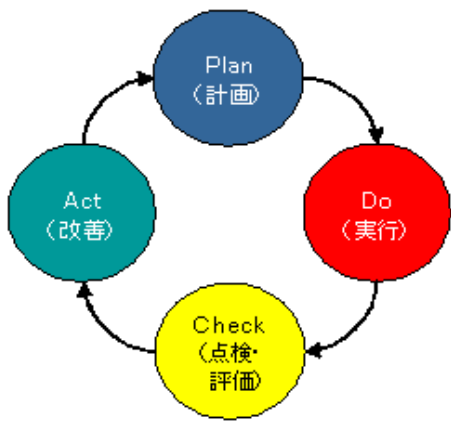
まちづくりは、行政と住民と企業・事業者がそれぞれ連携し合って進めていくものです。

以前は、行政や専門家の提案で総合計画やまちづくり計画が進められていましたが、これからはどちらが提案する側でもされる側でもなく、お互いに提案し合い考え合って、それぞれが受身でなく、協働によってまちづくりを進めていくことが私たちの役割となっています。

私たち「いくの地域自治協議会」は、地域住民や企業・事業者などによって構成されており、さらに NPO や子ども会、各種団体なども積極的にまちづくりに加わっていくことが求められています。

このまちづくり計画は、こうした多くの地域住民の参画を得て意見を集約させながら自らの目標として策定しましたので、計画の実現に向けても自分たちで確実に行動し繋いで次へ引き継いでいく必要があります。





そして、この計画は概ね10年という長期間に及ぶものですし、多くの地域住民が関係して計画の実現に向けて進められるものであり、今後はPLAN(計画づくり)→DO(実行)→CHECK(点検・評価)→ACTION(修正・改善)という計画実現のサイクルを毎年継続させ、より精度の高いまちづくりを進めていく必要があります。

いくの地域では10年以上前から様々な機会に住民参加のワークショップが進められ、他の地域以上に熟度の高い参画と協働のまちづくりが展開されてきました。

かつて、生野鉱山が全国の模範鉱山として発展してきたように、いくの地域自治協議会も他の模範となるようなまちづくりを展開していくことが求められています。

私たちのまちづくりに終わりはなく、際限なく続いていくものです。

ともに手を携えて、「ロマンあふれ かがやくまち 生野」の実現を目指して頑張っていきたいと思います。







## いくの地域まちづくり計画

(改訂版)

ロマンあふれ かがやくまち 生野

発行：平成29年4月1日

企画・編集：いくの地域自治協議会

〒679-3301 朝来市生野町口銀谷 594 番地 6

TEL&FAX 079-679-4502

E-Mail [ikuno-jichi@asago-net.jp](mailto:ikuno-jichi@asago-net.jp)

URL <http://asago-net.jp/users/ikuno-jichi/>